



▲消失したクリーニング需要の行方は？

ク代は30年で75%ダウン しかし、家庭用洗剤は微増

意外に家でも洗っていない!?

新型コロナウイルスも落ち着きを見せ、人の動きはかなり戻ってきたが、長引く物価高に実質賃金減、オフィスカジュアルの進行等により、今年ここまでクリーニングの商況は、期待した状況にはない。しかし、気象庁の最新の天気予報によると、「10月中旬までの」向こう1か月程度は気温の高い状態が続く」とのこと。遅くはなりそうだが、まもなく秋の衣替えシーズンを迎える。

「しまし洗い」はもちろん、年々増えている「着る前洗い」もしっかりとアピールして売り上げにつなげていきたい。

◆ ◆ ◆

クリーニングの需要は1992年(平成4年)をピークに、30年超にわたり減少傾向にあるが、その最も大きな要因として考えられているのが、家庭洗濯の普及・拡大により「多くの衣類が家庭で洗われている」。

ク需要ピークの1992年の1世帯当たりの洗濯代支出額(総務省統計局・家計調査)は1万9243円だったのに対し、2023年は4711円で75%減！ ほぼ4分の1と激減しているのだ(洗濯代)。

その一方で、同じく家計調査の「洗濯用洗剤」の支出額は92年の5040円に対し、2023年は5787円で1.15倍。家庭用の洗濯剤も競争激化等を背景に価格アップを図れているが、思っていたほど伸びてはいない。

家庭用洗剤に関して、経済産業省「鉱工業動態統計」より洗濯用合成洗剤(粉末・液体の合計/輸出を含む)の販売金額でも見てみよう。

こちらは2003年との比較となるが、03年の1773億6000万円に対し、2023年は2050億2700万円。や

「日本人はキレイ好き」のはずだが…

家庭用洗剤に関して、経済産業省「鉱工業動態統計」より洗濯用合成洗剤(粉末・液体の合計/輸出を含む)の販売金額でも見てみよう。

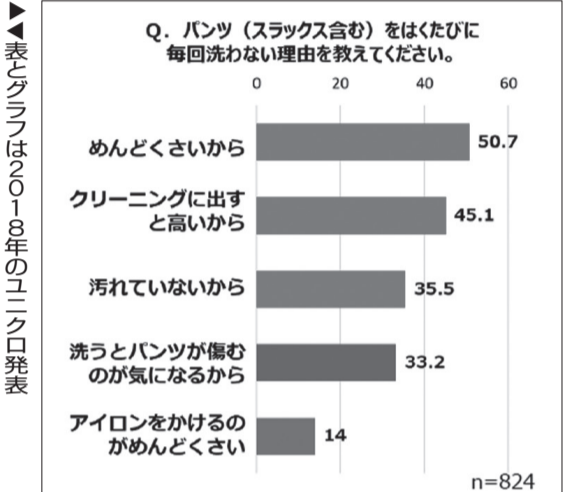
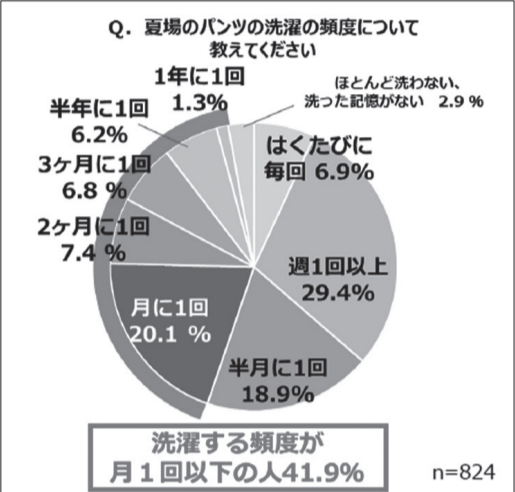
こちらは2003年との比較となるが、03年の1773億6000万円に対し、2023年は2050億2700万円。や

また、女性はそうした洗い方をするべきであろう。

◆ ◆ ◆

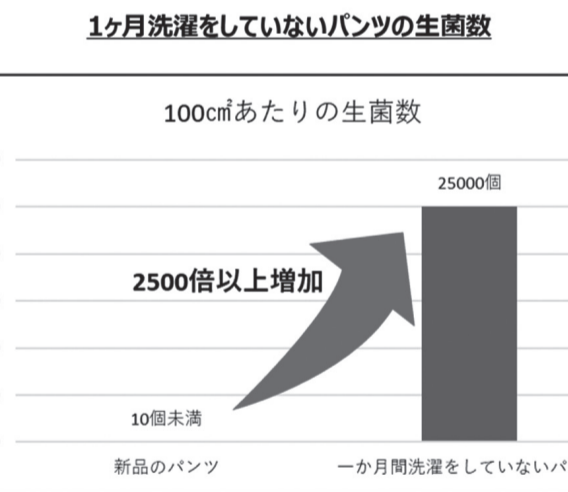
クリーニングの需要は1992年(平成4年)をピークに、30年超にわたり減少傾向にあるが、その最も大きな要因として考えられているのが、家庭洗濯の普及・拡大により「多くの衣類が家庭で洗われている」。

ク需要ピークの1992年の1世帯当たりの洗濯代支出額(総務省統計局・家計調査)は1万9243円だったのに対し、2023年は4711円で75%減！ ほぼ4分の1と激減しているのだ(洗濯代)。



なかつたのが40代の76%と、年齢別で見ても大きな差はなく、意外に「洗わないまま翌年も着る」人が存在するのだ。

また、さらに古いデータとなってしまうが、汗をかく夏場でも、仕事着として着用するパンツ(「スラックス」などのボトムス)を洗うのは「月に1回以下」という男性が41.9%もいるという。これはユニクロが2018年に実施したインターネット調査(20代男性の824名が対象)の結果。



▲洗わなければ、当然、汚くなる。生菌数は2500倍以上!

Etak® 職場・施設・家庭... 接触感染を防ぐ

抗菌バリアが Etak® で断ち切る

長時間持続!

EtakフルプロテクションZERO 2L

EtakフルプロテクションZERO 4L

詳しくは * イータック * 検索

KNM GROUP かなめ流通グループ

* Etak inフルプロテクションZEROは、業務用製品ですので個人(一般消費者)への販売は禁止されています。